

「森と水と命の惑星」国際会議

～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

(150)

(恩と友情)

父母や師への恩と友への情は民族や国を問わず人間の心の奥に流れているものであり、前回の梅下村塾（149）に（恩を受継ぐ）として掲載されている。卒業式で歌った「仰げば尊し」は1871年6月に米国のニューハンプシャー州の学校の卒業式で歌われたことが報告されており、「蛍の光」はスコットランド民謡である。

日本の国歌である「君が代」がオリンピックや国際試合で奏でられると、自然を受け入れ、他国を受け入れて、末永く続く関係を歌っていることが伝わってくる。日本の文化は自然と他国への恩と友情を尊ぶ伝統を持っており、戦後の偏狭なイデオロギーやナショナリズムとは縁の遠いものであることを認識するようになってきている。日本文化にはキリスト教文化、仏教文化、儒教文化をつなげる「もの」があり、これを創出して、世界にメッセージを発信すべき使命があると思う。

(東海文芸評)

詩 粉雪 菅原 智子
（あかね詩の会）の抜粋

「思い出と思ひやり」

返句
こんな粉雪降る夜は
石の布団じゃ冷たかろう

風の便りを聞きたいけれど

風は心の中を過ぎ去って行くだけ

誰か教えてあの人の思い出を

そっとしまっておける箱

墓に降り積もる雪、亡き人への思い出と思ひやりが伝わってきます

返句
思い出を 雪は包むや石布団

渚句会 2月旬会
兼題「薄氷」雑詠
(雷と下駄の音)
刈谷 則子

水屋まで行く下駄の音
薄氷

寒雷や手術の痕を疼かせて

薄氷を踏む下駄の音、寒雷に疼く傷の痕、凍った空気を伝わって聞こえる音を敏感に捉えております。

返句
薄氷 踏む下駄響く傷の痕

(けせんとわずがたり)
ヒデ インターネット
トで探して面識のないベビシッターへ子どもを預ける親がいるんだねえ！一茶の句「愛らしく両手の迹の残る雪」とはおおきく異なるね！

タカ インターネット
ト時代の親の子への感情ですかね！
ケイ 親も自己本位になったのかなあ！
ヒデ 現代の間人は、バーチャルな世界に生きているのだよ、一茶は「陽炎やむつまじげなるつかと塚」と死者の世界の情もよんでいるがね！！

タカ 三十三観音巡礼にも述べたけれど、けせん地方には地域や先祖への思いが残っていると思うよ